

尾池総長インタビュー

総長としての 5年間を終えて

— 学生との対談 —

学生に慕われていた尾池和夫総長に、
京都大学体育会前幹事長の安藤^{なおき}巨騎さん、
京都大学応援団チアリーダー部長の樋爪彩子さんと
在任中の思い出などについて語り合ってもらいました。



— まずは自己紹介をお願いします。

樋爪 私は農学部食品生物科学科の4回生です。2005年から京大にいます。課外活動として京都大学応援団のチアリーダーをやっておりまして、主に野球やアメフトの応援に行ったり、入学式や卒業式、また、七大戦^{*1}の壮行会でも尾池先生の前で何度か演舞をさせていただいたことがあるのではないかと思います。

尾池 オープンキャンパスとか。

樋爪 そうです。あとは、私が在籍しているときではないのですが、昔、11月祭の前夜祭で教員酒場、当時の教官酒場のマスターをしていたいたり、いろいろとお世話になりました。

尾池 そうなんです。やらされた(笑)。

安藤 私は法学部の4回生で、体育会の幹事長は昨年9月から今年9月まで1年間務めておりました。もともとボウリング

部に所属してまして、ボウリング部からの派遣で体育会本部に入りました。派遣制度があるのです。尾池先生には七大戦で非常にお世話になりました。昨年の京都大会のレセプション^{**2}には、舞妓さんまでお呼びいただいて。あれは良かったですね。みんな喜んでいて。東大の総長が七大戦に代理ではなく自分で来たというのは、あのときくらいでしょう。

尾池 あれは良かったですね。みんな喜んでいて。東大の総長が七大戦に代理ではなく自分で来たというのは、あのときくらいでしょう。

安藤 今年は残念ながら4位という不甲斐ない成績で、来年以降、もう一度立て直していかなくてはと思います。一時期は首位にも立ったのでいけるかなと思ったのですが、最後は名古屋大学にまで逆転されてしまって。

尾池 私の自己紹介をさせていただきますと、1959年4月に18歳で京都大学に入学。今68歳で、9月に退職しましたので、京都大学にはほとんど50年いましたね。最長不倒距離ではないかと思います。その間、一度も京都大学を出たことはなくて、ついに卒業できなかったという(笑)。学生時代は4年間理学部に在籍して、卒業してすぐ助手になり、22歳で京都大学から給料をもらい始めた。京都大学の111年の歴史のうち、50年くらいを見ている、そういうふうにと考えると結構長いですね。2001年に、宮崎昭副



七大戦壮行会 (2008年7月3日)



学長の後任として、長尾真総長から懇願されて副学長になりました。副学長というのは、教員から選ばれて、学生部の職員と学生の結び役をする、つまり、学生を支援するための学生部の仕事のリーダーシップを執るわけです。教育研究というのが大学の本来の役割なのですが、それはそれぞれの学生がいるところの先生たちがやるので、教育研究を進めるために周辺を整備し、学生を支援するのが学生部の仕事です。学生部はどんな仕事をしていると思われませんか。

安藤 私が一番お世話になっているのは、やはり課外活動担当の人たちで、物品の援助ですとか、特に昨年は京都で七大学戦がありましたので宇治グラウンドの改修など、そういうかたちで結構な額を援助してもらっていると感じています。副学長の東山紘久先生も学生の意見をよく聞いてくださいました。そのほかは保健関係とか奨学金、経済、あの学生部の建物の中のイメージですかね。

樋爪 応援団には騒音でクレームが来ることが多くて、そのたびに学生部の方に協力していただいて対処しています。私たちの支えという感じです。あとは奨学金で何回もお世話になりました。

【補足説明】

※1 七大学戦：北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学が参加する全国七大学総合体育大会

※2

京都大学ホームページ『トピックス』より抜粋

http://www.kyoto-u.ac.jp/cgi_build/back_number/2007.htm

◆2007年7月13日

第46回全国七大学体育大会の開会式を開催

時計台記念館にて第46回全国七大学総合体育大会開会式が開催され、7大学が参加して行われました。

開会式では尾池 和夫総長、吉田 治典体育会会長が全国七大学の総長を迎え挨拶を行いました。続いて、日下 宗之 第46回全国七大学総合体育大会実行委員長、澤田 政嘉 体育会幹事長が体育会を代表し挨拶しました。その後、谷口 真穂 女子ラクロス部主将による力強い選手宣誓がありました。最後に応援団による演舞が披露され、大会の火ぶたがきられました。今年の大会は京都大学が主管校であり、京都大学の優勝への期待が大いに高まっています。

また、開会式の後、レセプションが引き続き開催され、東山 紘久副学長乾杯のもと舞妓さんも迎え、盛大に催されました。



— 入り口という意味では入試も学生部の担当で、オープンキャンパスをやっているのは入試企画課です。オープンキャンパスの最初の年に、受験生にエールを贈りたいと応援団に演舞を頼みに行きました。ほかには学生の事件や事故への対応、学生寮のことなどもやっています。

尾池 学生の側から見ると、面倒見はいいですか。

安藤 多少もめるようなことはありますが、学生センターの方がいつもおっしゃるのは、各部がばらばらに来るので対応が大変ということ。体育会だけでも51、それ以外の公認サークルを合わせると100以上の団体があり、課外活動担当のところに、以前は別々に苦情を持っていったらしいです。それでは対応しきれないということで、今年からは体育会だけは本部でまとめて要望を出すようにしました。そうでないとやっていられないくらい忙しいとお聞きしています。

尾池 まあしかし、大学ってそういうところでしょう。それは仕方がない。京都大学というのは昔からあまり学生に親切な大学とは見えてなかった。だけど、中にもものすごく熱心な職員がいるのですよね。組織としてもものすごく学生に親切にするという思想はないわけです。サービス精神旺盛な人の努力に支えられていると思っています。法人化することによって、それを意識的に変えていこうという議論もしましたけど、あまり変わったとは思わないですね。

私が副学長をしていたのは国立大学の時代です。私が総長になってから「国立大学法人法」が施行されて、「国立大学法人京都大学」ができて(2004年4月1日)、その法人が京都大学を設置するという新しい形態になりました。それを機会にいろんなサービス機能を充実しなければという議論もやりました。昔は、昼休みに教務担当の窓口が閉まったり、午後5時を過ぎると図書館が使えなくなったりしていたけれど、それは改善しました。でもあなたたちはその変わったところを見ていないから、比較はできないですね。

安藤 最近便利になったと思うのはKULASIS(京都大学教務情報システム)の整備です。ウェブでの履修登録とか、いろんなことができるようになりました。以前は全学共通科目に関する情報だけでしたが、今は学部の情報もメールで来ます。わざわざ学部の掲示板をすべてチェックしなくても、必要な情報はそういうかたちで見ることができるようになったので、その点はありがたいです。

樋爪 最近の工事で建物もきれいになりましたね。

尾池 農学部の本館も見違えるようにきれいになりました。

樋爪 私が入ったときは女子トイレがとても少なかったのですけれど。

尾池 だいたい京都大学というのは女子トイレが不備な大学で、というのは、京都大学に女子が入ってきたのはつい最近です。太平洋戦争が終わるか終わらないかの頃の話です。私からね。私は副学長の前は理学研究科にいたのですが、その頃、南極観測の仕方などを決める極地研究所の委員をやっています。当時、南極の昭和基地には女子トイレがなかったのです。男社会として設計されていますから。それではいけない、女子も越冬できるような基地にしなくてはということになり、それを実現するまでに10年かかった。ようやく越冬できることになったとき、私の研究室にいた女性が「私、行きます」と名乗りを上げてくれたので、越冬してもらいました(1997年の第39次隊)。後で理学研究科の女子職員が何人かやってきて、「理学研究科の例えば天文台に女子トイレがないのを知らないでしょう。昭和基地どころじゃないでしょう」とえらい怒られた(笑)。それがいたく印象に残って、男女共同参画は言葉だけじゃなく、膝元からしっかりやっていかなくてはいけないと認識しました。コンサートホールだって、今は女子トイレが多い。京大の中は逆でしょう。研究室を広く取ろうとすると、トイレや階段が狭くなる。昔は奇数階を男子トイレ、偶数階を女子トイレにしたこともあった。でもトイレにしても

スロープにしても、必要なものは必要。そういうことをやりながら少しずつ改善していくという社会なのですからね。

— 学生さんを見ながら総長としてのお仕事をされてきたと思うのですが…。

尾池 私は2003年12月から約5年間総長をしていましたが、その間は学生が見えなかった。本部棟には、用のない人は2階以上に上がるなど書いてあります。

— 学生さんの方は、京都大学の総長というのを意識することはあるのでしょうか。

安藤 私たちは、よほど困った事態があったときは総長先生にお願いに行こうという感じです。

尾池 総長というのはだいたいね、藁やと思う(笑)。「藁をも掴む」という藁。職員に言ってもあかんし、先生に言っても埒が明かんし、困り果てて、藁をも掴む思いで来ましたみたいな。だから総長って藁人形。そういうことで、学生が総長に直接ものが言えないのはまずいなと思ったので、私は総長になったときに専用のメールアドレスを用意しました。それは一つの安全弁として、専用のメールが送れるようにしたのです。大学紛争の歴史が戦後長い間ありましたので、学生が総長を攻めることができないようにという思想が続いていました。法人化して変わりましたね。それで私が退任の時の挨拶の中で「学生と団交せずに辞めた初めての総長です」と言ったら、新聞記者がそれをそのまま書いた(笑)。そういう珍しい事態だった。辞めるときには、学生と交わした約束を確認するために団交の場を学生が仕掛けてきて、約束が引き継がれていくという歴史が戦後ずっと続いてきました。歴代の通過

儀礼のようにね。長尾先生が総長のときには、私が副学長としてその団交の仲介をした。なかなか総長と学生が直接話をするという機会はないわけですよ。

旧帝国大学はみなそうでしょうね。

ただ、総長でも直接できることがあると思ったのは、生協の話ですね。生協の運営には学生も参加している。その学生の理事が、「日頃総長というのは馴染みのない存在である。馴染みを作りたいので、生協の食堂で出す料理を考えてほしい」と言ってきたのが、「総長カレー」ができたきっかけです。学生部の人たちが仲介して、学生の理事との話し合いの場を持ってきて。カンフォーラで総長フェアみたいな行事をしたいから考えてほしいということだったのですが、そのときに数人の学生さんたちと1時間以上議論した。それで、みんなでカレーを作ろうかと。私がうるさいのは健康面のこと。カレーで白いご飯を食べ過ぎると血糖値が上がる。血糖値が上がらないように雑穀米を勧めるようコーディネートしようと、ご飯を3種類、カレーを5種類作って、組み合わせで15種類のカレーを選べるようにしました。評判だったので、フェアの後もう1ヶ月続け、定番として、特に人気の高かった上位3種が今もカンフォーラで出されています。そのうちのヒット商品のビーフカレーをKBS京都が京都の逸品を販売するインターネット通販サイトで販売したいということで、レトルトの総長カレーもできました。



総長カレー(ビーフカレーとサフランライス)



—ボンカレーの次に売れているとか。

尾池 とにかくよく売れている。ただ、総長が代わったら「総長カレー」はやりにくいだろう、ということで、これからも「総長カレー」の名を使えるように、伝説を書き直したのです。日本人で初めてカレーを食べた京都大学の第6代総長、山川健次郎にちなんだカレーであると。山川は日本で最初の物理の教授なのですけれども、若いときにアメリカに留学するために船に乗った。船酔いして気分が悪くなったのでしょうか。ご飯が食べたいと一所懸命メニューを探したところライスカレーというものがあつたので、それを食べたらずかつた、と日記に書いてあるのです。とにかくライスカレーを日本人で初めて食べたのは第6代総長である、「総長カレー」という名前はそれでよかろうと。こんな具合で、それくらい学生さんとの距離があるわけですが、総長の役目というのは、要するに広報機能だと思っているのです。京都大学の中をどうやって一般の人、あるいは学生に見せるのか。山中伸弥先生のiPS細胞（人工多能性幹細胞）のような研究は新聞もどンドン取り上げるし、放っておいても有名になる。それは全然心配していない。でも、研究や教育に興味のない人が京都大学の中をどうやったら見てくれるか。それで、カレーを売り出してみたりビールを作ったり。ビールは、農学研究科の先生に協力していただいて3種類^{*3}作りましてけどね、それも大成功。一斉に新聞が記事を書いてくれることが大事なのです。そうするとYahooがトップに挙げてくれる。そこからのリンクで、京大ホームページへのアクセスが増える。年に1回くらいは何かを仕掛けるのです。

レジ袋の縮減に関しては、今年の春、「やったねバッグ」というのを新生に配った。「やったね」と私が筆で書いて、それだけじゃ面白くないから下に「それがどないしてん」と……。



やったねバッグ



ホワイトナイル（緑ラベル）、ブルーナイル（青）、ルビーナイル（オレンジ）

—学生さんからみて、尾池総長はどんな方でしたか？

尾池 今、一所懸命答えを考えていると思いますが（笑）、先に私の方から少し説明すると、要するに総長は広告塔で、国立大学法人の役員を取りまとめている人なのです。それぞれの役員と部課長さんや本部の職員さんたちが繋がっていて、その職員たちは法人ではなくて京都大学の職員、理事と総長だけが法人の職員。先生たちも、法人が設置した京都大学の教員なのです。そういう意味で総長は学生と繋がっていないわけです、学生の指導もしませんし。だから本来、学生にとっては見えても見えなくてもいいわけです。しかも総長選考会議が総長を決めるから、何の馴染みもないわけです。入学式で式辞を読んでいる人なのです。

毎年4月、5月頃に課外活動で「花折断層^{*4}を見学する会」というのをやられる。そのときだけ地球科学者として使ってくれる先生がいて、私が新生に花折断層について説明しています。ある年、疎水の辺で入学式の話誰かが出して、「ああ、あの入学式はねえ」と私が喋っていたら、隣を歩いていた新生が「先生も入学式に行ってたんですか」って（笑）。「行ってたよ」と話したのですが、そんなものなのです。

樋爪 入学式は確かに、新生にとっては、右も左も分からない中でのことです。仕方ないかもしれないですね。

尾池 入学式でどんな話をしたかなんて、誰も覚えてないでしょうね。卒業式になると、ちょっと違うと思うのですけど。今年の11月祭に2回行ったのですよ。学生に講演と、俳句の会の指導を頼まれて。「総長来てる」とか言われ、「前総長や」と訂正したら、「えっ?」とか言われて……。

樋爪 学生の中には総長カレーのイメージが強いのですから。

安藤 私たちは4年間、尾池総長でしたので、総長というとな真っ先に尾池先生ということになります。

尾池 私は第24代総長ですが、東京大学の第24代総長は有馬朗人さん。24代同士でこの前、『俳句研究』という雑

誌で対談をやりましたけど(2008年秋の号)。20年歴史が違うから、だいぶずれていきます(有馬総長の任期は1989年4月～1993年3月)。そこでも、要するに学生と総長はほとんど無縁のもの確認されました。

安藤 ただ、私は総長先生に、体育会幹事長を交代したときに挨拶に伺ったりもしましたし、例えば「京都大学新入生キャンペーン^{※5}」というのを今年初めて開催したいというので、東山先生を介して尾池先生にお話を聞いていただきました。そのときも尾池先生は「自由にやったらいいよ」みたいな感じでおっしゃっていたので、学生のことをよく考えてくださっているのだなと思いました。

尾池 ここでいう自由というのは、大学の枠の中での自由なのです。この枠をどういうものにするかを考えるのが我々です。なるべく広い枠で、だけど健全でないといけない。私は「放し飼いの鶏」とよく言いましたが、「放し飼いの鶏」が育つには、まず土壌がきれいでないといけない。また、囲いがないと危害が加えられる。というわけで、枠は必要なわけですよ。それを「野放し」と間違えている人がいる。それだったら何も京大に入る必要はない。ですから、大学という囲いの中で、自由奔放に思い切り羽ばたいてくださいというのが私の考えです。

いま、私は、「人づくり21世紀委員会」という活動に関わっていて、これは子どもを育てるための組織なのですが、「子どもを育てる」というと、皆さん、教育する、しつつけると考えているのです。しかし私は、「そうじゃない、子どもは育つもの、他動詞で議論するな」と言っている。自動詞で子どもは育つのです。京都大学でもそう。自学自習。

教育育てると考えてはいけません。education を「教育」と訳したのは明治時代の翻訳ミスで、元の意味は才能を引き出すことなのです。

松沢哲郎さん(京都大学霊長類研究所所長)のチンパンジーの子育ての研究は有名ですが、そこでも、親は子に何も教えてはいない、けれども子どもはちゃんとできるようになる。ただ、「京都大学にもそれが必要ですね」と松沢さんに言ったら、「いや、それはチンパンジーの話です。人間は違いますよ」とおっしゃる。そのあたりが松沢さんの良いところですね。すぐチンパンジーを例に挙げて説教する人もいるけれど、本物の科学者は違う。面白いですね。京都大学の学生さんたちは結局、自分で一所懸命探さないといけない。教育とは何か、卒業までに何をするかを。そういう方針で来たので、京都大学では、割合つぶしが利く人ができます。

さっき「放し飼いの鶏」と言いましたが、それは副学長のときからずっとやっている京都大学全学教育シンポジウムの最初の年に、懇親会の場で「鶏というのは大原の放し飼いの地鶏が一番おいしい。京大の将来のために乾杯しましょう」と挨拶したのが初めてなのですね。そうしたら、「放し飼いにすると歩留まりが悪い」という先生が何人かおられたので、翌年のシンポジウムでは、「歩留まりが悪いというのは土壌が汚れているからで、教育というのはきれいな土壌にしてから放し飼いをするのだ」と言ったら納得してもらえた。いろんな反応がありました。一番私が気に入ったのはあるアメリカ人の反応で「その鶏はどこで食べられますか」と(笑)。まあこれが正しい

【補足説明】

※3 ビール:古代エジプトでビール醸造に使用されていた「エンマー小麦」を使った「ホワイトナイル」、姉妹品の発泡酒「ブルーナイル」、同じく古代エジプトで栽培されていた「ピラミダーレ小麦」を使った「ルビーナイル」。いずれも早稲田大学との共同ブランド。

※4 花折断層:京都市の東部から滋賀県北西部にかけて、45kmほどの長さを持つ活断層。京都大学吉田キャンパスの東、吉田山の西の麓を通っている。

※5

京都大学ホームページ『2008年度ニュースインデックス(大学の動き)』より抜粋

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/2008/news7/080503_1.htm

●新入生キャンペーン「東国原英夫宮崎県知事講演会」を開催しました。(2008年5月3日)

京都大学では、新入生キャンペーンの一つとして、宮崎県の東国原英夫知事を招き、「京大をどげんかせんといかん」と題した講演会が開催されました。このキャンペーンは、新入生を歓迎する行事として、学生で組織する「新入生キャンペーン実行委員会」(委員長:宮下哲志氏(経済学部4回生))によって企画・実施され、4月10日の歓迎イベント、4月16日の講演会(京大OBで学生ベンチャーの先駆者の堀場製作所最高顧問・堀場雅夫氏による講演)に続くものです。

この日の講演会には、事前予約を大幅に上回る新入生ら約1,400人の参加があり、会場である総合体育館はほぼ満席の状態となりました。

講演に先立ち、東山紘久副学長(教育・学生担当)から開会の挨拶があり、次いで、東国原知事の講演では、自らの体験談やエピソードを交えながら終始なごやかな、時には会場の爆笑を誘いながら、「国を引っ張っていくという気概で頑張ってもらいたい。自分で問題を提起し、答えを見つけてほしい。」との熱いメッセージが投げかけられ、参加した新入生にとって貴重なひとときとなりました。

また、講演会の前後にはクラブ活動等がビデオ放映され、参加者にとっては京都大学のさまざまなクラブ活動の様子を知る良い機会となりました。

反応ですね、食べ物の話をしているのですから。ところが3年目は、また「鶏」というわけにもいきませんから、イリスの諺の話をした。馬を川に連れていくことはできるけれども、水を飲ませることはできないという有名な諺がある。それで我々の役目は、学生がいつでも安心して水を飲むように川を常にきれいにしておくことだと話しました。最近の教育シンポジウムの議論の中心は、「自学自習は成り立つのか」ということ。本当に放っておいていいのかどうかはとも疑問であると。入学定員を守っていると最低点が落ちてくる。放し飼いにすると落ちこぼれが出てくるので、それはまずいということで、少人数担任制を導入したり、いろんなことをやりました。

安藤 文系の私から見ると、理系の方が手取り足取りの面が強いかと思います。文系は今でもかなり放し飼い状態です。

尾池 まあ、理系でもそうですけど。ただ、実験をするための道具、機械を使いますから、最初はある程度教えないといけない。でないと危ないですから。でも理論物理、益川敏英さん(京都大学名誉教授、2008年度ノーベル物理学賞受賞)の研究などは放し飼いなのですよ。ああいう分野の仕事は、変に面倒みるとノーベル賞をもらうようなことができなくなってしまいます。湯川秀樹さんも朝永振一郎さんも言っておられますけど、彼らには誰も何も言わなかった。京都大学は場所だけなのですね。そこにたまたまうるさく言わない先生がいたから、彼らは良かった。設備もお金もいらぬ。ところがiPS細胞みたいに、設備があって、一所懸命やるからできたものもある。この場所はそういう場所なのですね。思い切り自分のしたいことができる。何でしょうね? 伝統ですかね。

安藤 ほかの大学の人の話を聞くと、京大は放任なのだと思います。一番思うのは、授業の出席を取らないことですかね。

尾池 以前、茂木健一郎さんが言っていましたね、理学部が授業登録していないと聞いて「驚天動地の大学です、こは」と。

樋爪 今もですか?

尾池 理学部では、今は試験登録を導入していますが、それまでは学生は適当に授業を受けて、適当に試験を受けに行く。だから中には四百何十単位も取っている人がいたのです。要するに出席しなくても試験を受ければ取れるから。ただし、それだけでは落ちこぼれが出ますから、理学部では2003年度に少人数担任制度を導入しました。試験登録を始めたのは、2005年度の後期からです。大学も法律で「認証評価」を受けることになりましたので、評価に耐えるためには必要最低限のことはやらないといけない。授業料を取っている以上、京都大学のようなと

ころで「落ちこぼれ」があまりいるのは良くありませんからね。ただ、実は私は、認証評価では分野別の評価を導入していく必要があると思います。どういふことかという、大学全体を総合評価すれば、東大、京大は絶対基準を満たすのです、総合点ですから。ところが分野別評価をすると基準を満たさないところもいっぱい出てくる。現に2000年度の大学評価・学位授与機構の試行評価で、医学部が多くの改善点・問題点の指摘を受けた。入学試験で面接をしてないというところから始まって、人と喋れないような学生が医者になったら困るという評価。それで医学部の先生たちは必死でいろんなことを立て直して、短期間でものすごく良くなりました。そういう分野別の評



価をしたら必ず進歩する。競争原理の導入で大学を良くしようと思ったら、それが一番効果的です。将来の評価に耐えるためにはこうしておかなければいけないということを、今一所懸命やっている。いろんな制度改革は、それを意識してやっている。学生から見たらそんなには変わって見えないし、実際、急激な変化は良くないでしょう。じわじわと将来を見通しながら変えていったら、10年経ってみるとえらい違いになる。それが大学の歴史でしょうね。

安藤 法学部では、私の一つ上の学年からキャップ制^{*6}が導入されました。そのせいで不本意留年が増えたという噂があります。

尾池 農学部では、制度的な変化はないですね。時々、学部のことについて何とかしてほしいという人もいますが、基本的に「学部の自治」を重んじています。

— 総長が退任されるときに応援団がお見送りをされましたね。

尾池 あれは嬉しかった。

— 慕われていたのですね。

樋爪 そうなのです。それで、先生が総長を退任されるときに何かできないかなということでも学生部の方に相談して、お見送りをさせていただきました。

尾池 環境保全センターやエコミットの人たちもいましたし、最後にずらっと並んで写真を撮りました。応援団で思い出すのは、オープンキャンパスのとき、いきなり部屋の中で太鼓を叩いたこと。どの大学を受けるか迷っていたけど、あの「ドーン」で京大に入ろうと決心した人もいたらしい(笑)。



— 生協で売っている“Kyoto University”という銘の入ったシャープペンシルをオープンキャンパスで買って、机の前に置いて、京大に入るんだと受験勉強を頑張っている高校生もいるようです。

安藤 あれは結構みんな持っています。受験で使ったという友達も多いです。それと、地元に戻るときに知り合いの高校生などに京大グッズを買っていくと喜ばれますね。あのシャープペンシルも先生のアイデアだとか。

尾池 中学生がお小遣いで買えるものをいろいろ考えてね。チョコレートが一番ヒットしましたが、あれは夏場は駄目だからね。

樋爪 私は「総長カレー」を箱で買って帰ります。祖父とかが喜ぶので。

— 先生は学生の家族なども意識して広報をされたりしているのでしょうか？

尾池 あまりしてないですけどね。例えば、11月祭で家族を案内する学生が増えてきましたが、それはものすごく良いことだと思うので、できるだけ声をかけるようにしています。「メールマガジン」を始めたのも、いろんな方々に、定期的に京都大学のことを発信したいと思ったからです。

— 京大ホームページの「ライブカメラ」も1日100件くらいアクセスがあります。

尾池 本部棟から見た景色をいつも写しているのです。自分でズームアップなどの操作ができて、東山や時計台が映る。ライブカメラファンは世界中にいますから。この前も、京都大学という名前を世界中の言語でホームページに出してはと提案しました。それで、その言語を検索でクリックしたら、京大ホームページにたどり着く。あとは英語でも日本語でもいいので、ホームページを見てもらえます。まず名前を見せることです。

進々堂のパンの袋には、世界の言葉で「ありがとう」のコレクションが載っています。実はあのコレクションについては、私もいくつか世界の言葉を教えてあげました。広報とは、そういうものではないかと思います。

樋爪 学生のことで苦勞されたことはありますか。

尾池 よくやる学生はやるし、やらない学生はやらないし、あえて注意はしない。観察の対象です。自然科学をやっていると行動の観察はよくします。俳句を詠むときはじっと見ている、ゆっくり詠むわけです。

樋爪 私が大学に入って一番びっくりしたのは、百万遍の石垣カフェ^{*7}ですね。あれは衝撃的でした。

尾池 寒いときにご苦勞さんと思いましたが、それでも私は石垣カフェのバッジを持っているしね、そういうお付き合いもあるのです。学生が一所懸命やっているから付き合う。ただ、立看板なども出していいところといけなところがある。野放しだけど、一定のルールの中でやってほしい。それができている限り、京都大学は安泰だと思っています。

【補足説明】

※6 キャップ制：各学年ごとに履修できる単位数に上限を設ける制度。

※7 石垣カフェ：百万遍交差点に面した石垣を撤去して歩道を整備する大学の計画に反対した学生が2005年1月、石垣を占拠してカフェを営業。石垣を残したかたちで整備することで大学側と合意し、カフェは8月に自主撤去された。

—尾池先生は立看板は京大の文化だとおっしゃっていますよね。

尾池 「芸大の学生より上手だ」と、京都市立芸大の先生にも言うのです。時代とともに上手になりましたね。東一条の角を定点撮影で20年も写し続ければ本ができます。看板を見るとその時代のことがよく分かりますね。

応援団員が増えていくのも一つのバロメーターです。部活動の学生の数はよく見ておくように、と職員に言っていました。落語研究会の部員が一時4人になったことがあり、桂都丸さんと呼んできて、「桂deかつら落語」というイベントをやったら、翌年は13人に増えた。そのときは私も落語をやりましたよ。

—もちろん尾池先生は地球科学者ですから、総長をされていた期間中も、研究のことは頭を離れていなかったのでしょうか？ 在任中、頭の中は京大のことに研究のことがそれぞれどれくらいを占めていたのでしょうか。

尾池 いや、ほとんど24時間京大のことが占めていたのではないのでしょうか。というのは、役員というのは勤務時間が定まっていない。研究者というのは、24時間その研究テーマのことが頭を占めているものではありませんが、役員として給料をもらっている以上はね。でも、もうこれからは京大のことは頭から離すかな(笑)。

安藤 尾池先生はもともとフィールドワークがお好きなのですか。

尾池 好きというか、私の科学者としての仕事はフィールドワークが中心です。だから、総長時代もなるべくフィールドに出るようにしていました。フィールドワークをやっている学生や先生たちが世界中にいっぱいいますので。だから、とんでもないところに現れるのですね、ベトナムの山奥とか。



サイコロベンチ (吉田南1号館ホール)

紀伊半島の杉林を見てきたことから、吉野杉の間伐材でサイコロベンチができた。本部棟の隣にあるセミナーハウスも間伐材を利用して造りましたね。それも広報活動の一環です。フィールドワークの現場にもやはり総長としての仕事として行きました。

安藤 今後はどういうお仕事をされるのでしょうか。

尾池 けいはんな学研都市にある財団法人国際高等研究所のフェローとして、地球科学の研究を続けます。それと、今私が一所懸命やっているのはユネスコが支援している地球遺産、「グローバル・ジオパーク・ネットワーク」のことです。ユネスコの世界遺産には自然遺産と文化遺産のほかにもう一つ、地球遺産というのがある。日本はまだ地球遺産には参加していないけど、いよいよ参加すると国が方針を決めましたから、どの地域を推薦するか審査する会の委員長をしています。応募してくるところの現地を知らないと審査できませんので、10月の総長退任以来、今日まで4ヶ所見に行きました。あっちに行ったりこっちに行ったり大変なのですが、フィールドワークに関心があるからできる。糸魚川と洞爺湖と島原半島の3ヶ所をまずユネスコに推薦すると決めました。併行して日本のジオパーク・ネットワークにもあちこちから申請が来ていますので、その審査をこれからします。

それに、地球のことを少しでも市民に知ってもらおうという運動を進めていきたい。それでまた京都大学の先生にもお世話になるつもりですし、漫画^{**8}のことも紹介しておきました。ジオパークを1冊ずつの漫画にしてほしいと、精華大学にお願いしているのですが、悪乗りしてまして、精華大学の理事にも就任することになりました。何でもやろうという根性なのです。

—そろそろまとめのお言葉をお願いします。

尾池 総長在任中はたくさんの方々のお世話になりました。法学部の先生方にも、法人化で京大の規則を全部作り直さないといけなかったりして、随分お世話になりました。法人化して、教務の窓口が開いている時間が増えるなど良くなった面もありますが、その後に入ってきた学生さんたちは、そういうものだと思っているでしょう。2万3000人も学生がいますから、まずいことがあったら誰かが必ず何か言ってきます。例えば、「時計台の南側ばかりきれいにして、北側はほったらかしや」と言ってきた学生さんがいるのですが、それで最近、北側がきれいになったでしょう。それは学生の声からです。



MANGA Kyoto University

— 学生さんの声の方が総長の一言より大きいと？

尾池 もちろんそうです、学生から授業料をもらっているのですから。「説明責任」という言葉が最近よく使われますが、私は官僚や政治家には「理解責任」、説明しなくても勉強してちゃんと理解する責任があると思っています。さっきも話した認証評価は7年に1回受けないといけない。京大は去年受けたけれども、そのために忙しい中、分厚い資料を用意しました。正しくいい評価を簡単にできるようにする必要があります。

安藤 七大戦の名称を変えられましたが、あれも、法人化との関係ですか？

尾池 もとは「七帝戦」「国立七大学総合体育大会」と呼ばれていたのですが、九州大学が幹事校のときにもうすぐ法人化して国立大学ではなくなるので国立はまずいということで「全国七大学総合体育大会」と名称を変えました。「独立行政法人ではなく国立大学法人に」という努力をしている最中に、わざわざ自分から「国立」の名前を返上するとは何事かと私は抗議したのだけど。だから「全国」という言葉は私の口からはついにいなかった。国立大学は、国のお金で学んでもらうという明治時代からの非常に良い制度ですから、やはり民営化してしまう

とまずいでしょ。国は金を出して口は出さないという今までのやり方が一番正しいやり方だと今でも私は思っているのですね。

安藤 尾池先生についての悪い評判は学生の中でまったくありませんでした。七大戦では式典だけでなく、去年は祝勝会まで来ていただいて、大変感謝しています。お忙しいとは思いますが、これからはご自分の研究を中心にご活躍ください。

樋爪 いろいろとお世話になり、ありがとうございました。退職されても学生の活動を見守ってください。

— 最後にもう一つ、もしも「総長をあと5年やってほしい」と言われたらどうされますか？

尾池 断わります。総長になったとき、フルマラソンでゴールが見えたと思っていたら、あと5キロ走れと言われたような心境だと挨拶したのですよ。もう5キロはあかん、断固断わる。私の希望としては、いかに国立大学のいいところ、伝統を守っていくか、若い人たちに頑張ってもらいたいと思います。

— 皆さん、お忙しい中ありがとうございました。

【補足説明】

※8

京都大学ホームページ『トピックス』より抜粋

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news7/2008/080917_4.htm

大学の広報活動を重視する京都大学尾池総長の発案により、京都大学を身近に感じてもらう目的で「マンガによる京都大学紹介冊子」を作成することになった。尾池総長から、マンガ学部を擁する京都精華大学の島本学長に話を持ちかけられ、両大学の教職員・学生参加の元マンガプロジェクトを立ち上げ、平成18年8月から具体的な作業が始まった。様々な問題を乗り越え、平成20年9月に完成した。